

平成 26 年度

千葉県公立高等学校入学者選抜
学 力 検 査 の 結 果

千葉県教育委員会

目 次

I	概 要	2
1	はじめに	
2	実施日，教科	
3	調査の対象	
4	学力検査問題の特徴	
5	結果の概要	
II	【前期選抜】教科別の結果	
1	国 語	4
2	社 会	6
3	数 学	8
4	理 科	10
5	英 語	12
III	【前期選抜】受検者の得点分布	14
IV	【後期選抜】教科別の結果	
1	国 語	16
2	社 会	18
3	数 学	20
4	理 科	22
5	英 語	24
V	【後期選抜】受検者の得点分布	26

I 概 要

1 はじめに

平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、前期選抜及び後期選抜において学力検査を実施した。その結果をもとに作成した「学力検査の結果」は、本県中学校及び高等学校における教科指導向上のための資料の一つとなるものと考えている。

2 実施日、教科

前期選抜の学力検査は、平成26年2月12日（水）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各50分、各100点満点で実施した。

後期選抜の学力検査は、平成26年2月28日（金）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各40分、各100点満点で実施した。

3 調査の対象

本結果は、平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜の前期選抜及び後期選抜の学力検査で、全日制の課程（特別入学者選抜、地域連携アクティブスクール2校を除く）を受検した者のうち、5教科全てを受検した者（前期選抜では39,210名、後期選抜では17,550名）の結果についてまとめたものである。

なお、正答率・無答率については、各教科とも全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約10%）によって算出した。

4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力がみられるよう配慮した。

平成26年度の学力検査問題の特徴は、次の2点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度がみられるよう、複数の解答についてすべて正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を多くした。
- 学習した基礎的知識を応用して答えを導く問題や思考力、判断力、表現力を総合的にみることのできるような問題を多くした。

上記2点を柱に、「自ら学び、思考し、表現する力」をみる問題を充実させた。

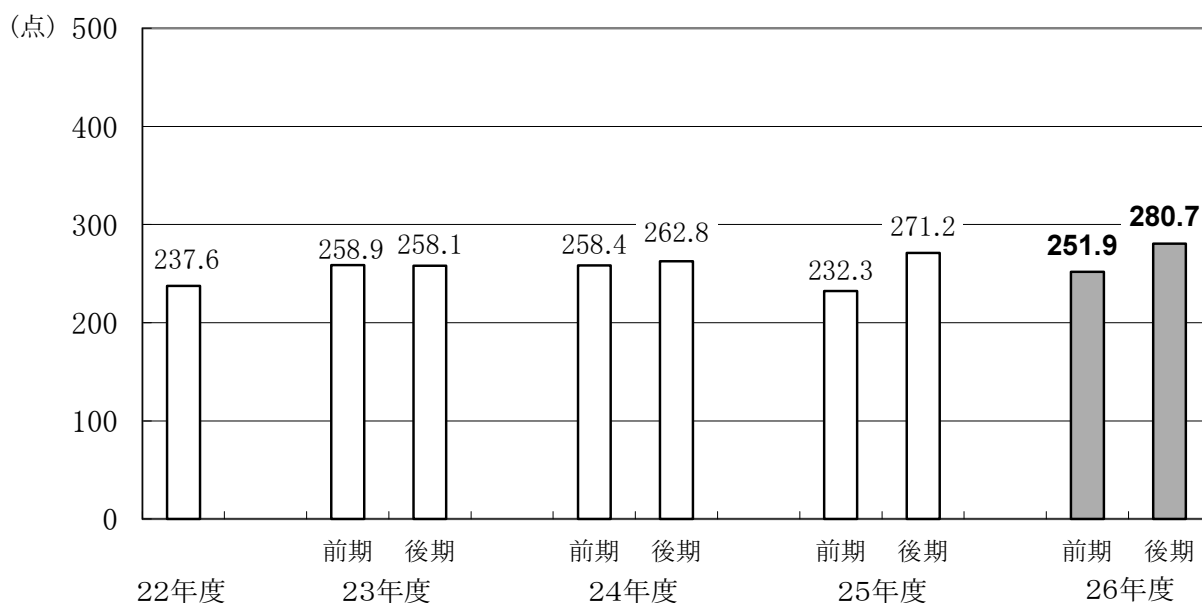
5 結果の概要

【表】各教科及び5教科の平均点

()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
平成 26 年度	前期	52.3 (17.5)	48.8 (21.2)	52.6 (19.4)	43.9 (21.8)	54.2 (22.6)	251.9 (88.5)
	後期	57.6 (18.5)	60.0 (21.4)	52.8 (19.0)	54.8 (20.9)	55.5 (23.9)	280.7 (91.1)
平成 25 年度	前期	44.7 (14.8)	44.9 (20.6)	46.5 (18.7)	45.5 (18.1)	50.6 (22.5)	232.3 (87.7)
	後期	52.6 (15.0)	56.5 (21.1)	55.4 (19.3)	56.4 (21.2)	50.3 (24.7)	271.2 (90.9)

【図】5教科の平均点の経年変化



前期・後期選抜の各教科及び5教科の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。平成26年度の前期選抜及び後期選抜の5教科の平均点を見ると、前期選抜は前年度よりも20点程度高くなり、後期選抜も前年度より10点程度高くなった。

なお、受検者の得点分布については、前期選抜は14、15ページ、後期選抜は26、27ページに示した。

Ⅱ 【前期選抜】教科別の結果

1 国 語（前 期）

（1）出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき，3領域（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」）の基礎的・基本的な力がみられるようにした。

イ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力がみられるようにした。

ウ 様々な文章について，内容を的確に理解し，書き手の伝えたいことなどを考察する力がみられるようにした。

エ 与えられた材料について，自分の言葉で考えを適切にまとめたり，相手に的確に伝えたりする力がみられるようにした。

（2）正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,902

領 域（事 項）・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均（％）
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一	10点	61.6
書 く こ と	作文	八	12点	13.0
読 む こ と	説明的な文章	五	20点	54.7
	文学的な文章	六	20点	40.5
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	四（2） 七	14点	45.7
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四（1）（3）（4）	6点	59.9
	漢字に関する 事項	読み 書き	二 三	8点 10点

（3）結 果 の 説 明

全体の平均点は52.3点で，前年度と比べて7.6点高くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が78.1%と最も高く，次いで話すこと・聞くことの「放送による聞き取り」が61.6%であった。逆に，書くことの「作文」が13.0%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問二「漢字（読み）」の(3)「余裕」，(2)「悔（しさ）」，(1)「澄（んでいる）」及び大問四の(3)「慣用句」であった。逆に正答率が低かったのは，大問六の(4)「文章の展開と登場人物の心情の理解」，大問六の(5)「登場人物の心情の理解と表現」及び大問八の「資料をふまえての二段落構成の作文」であった。

無答率が高かったのは，大問七の(3)「文章の内容の理解と表現」，大問六の(5)「登場人物の心情の理解と表現」及び大問五の(3)「文章の内容の理解と表現」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率		
			選択	短答	記述				
一	(1)	放送による聞き取り	説明の内容の理解と四字熟語	○		83.4	0.2		
	(2)		説明の内容の理解と表現(敬語)	○		66.9	0.2		
	(3)		説明の内容の理解	○		81.7	0.1		
	(4)	「学校説明会」	説明の内容の理解と要約 (20字以上30字以内)			○	14.4	10.8	
							25.6		
二	(1)	漢字(読み)	澄[す](んでいる)		○	95.0	0.6		
	(2)		悔[くや](しさ)		○	98.7	0.0		
	(3)		余裕[よゆう]		○	99.3	0.1		
	(4)		慶弔[けいちょう]		○	19.2	14.8		
三	(1)	漢字(書き)	絶(やさず)		○	52.2	23.3		
	(2)		暮(れる)		○	85.0	9.5		
	(3)		綿密		○	56.0	11.0		
	(4)		模様		○	63.4	16.6		
	(5)		集大成		○	31.4	21.6		
四	(1)	恩師への電話	助詞「の」の働き	○		54.1	0.9		
	(2)		返り点		○	27.6	9.7		
	(3)		慣用句		○	89.1	1.8		
	(4)		相手や目的に応じた話し方	○		36.6	0.4		
五	(1)	説明的文章 『組織を強くする技術の伝え方』	文章の展開の理解	○		83.2	0.4		
	(2)		文章の展開の理解		○	40.2	11.0		
	(3)		4点 1~3点 無答	文章の内容の理解と表現 (20字以上25字以内)			○	24.8	25.9
								8.5	
	(4)		文章の内容の理解	○		60.7	0.8		
	(5)		文章の構成	○		67.0	1.2		
(6)	①②	文章の読み比べ		○	52.1	4.6			
六	(1)	文学的文章 『五色の九谷』	登場人物の心情の理解と表現		○	73.8	15.0		
	(2)		文章の展開の理解	○		74.0	1.4		
	(3)		3点 1~2点 無答	登場人物の心情の理解と表現 (15字以上20字以内)			○	15.0	21.8
								16.8	
	(4)		①②	文章の展開と登場人物の心情の理解	○	○		1.8	9.0
	(5)		4点 1~3点 無答	登場人物の心情の理解と表現 (20字以内)			○	13.0	28.8
								24.3	
(6)		登場人物の設定の仕方と文章の内容の理解	○		65.3	14.2			
七	(1)	古典 『十訓抄』	歴史的仮名遣い		○	82.1	8.1		
	(2)		文章の展開の理解		○	52.9	23.1		
	(3)		① ② 4点 1~3点 無答	文章の内容の理解と表現 (①5字以内 ②10字以内)			○	15.7	29.6
								25.6	
	(4)			文章の内容の理解	○		50.1	14.5	
八	12点	条件作文 「読書後の行動」	資料をふまえての二段落構成の作文 (200字以内) ・前段部分は資料から読み取ったこと ・後段部分は前段の内容をふまえた自分の考え			○	13.0	13.7	
	8~11点						26.3		
	4~7点						20.3		
	1~3点						8.1		
	無答								

2 社 会 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し，学習の成果が総合的にみられるようにした。
- イ 基礎的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにするとともに，現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度がみられるようにした。
- ウ 統計や地形図，写真などの諸資料を活用して，社会的事象を判断・分析する力，そしてそれを表現する力がみられるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力がみられるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,902

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)	
総 合	総 合 問 題	1 13点	66.2	
地 理 的 分 野	日 本 地 理	2 16点	47.9	49.0
	世 界 地 理	3 15点	50.1	
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	4 16点	41.7	50.9
	近 ・ 現 代 史	5 15点	60.0	
公 民 的 分 野	国民生活と経済・社会	6 9点	35.7	33.0
	日本の政治制度	7 10点	30.7	
	国 際 社 会	8 6点	32.5	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は48.8点で，前年度と比べて3.9点高くなった。

分野・内容別の正答率は，総合問題が66.2%で最も高く，次いで歴史的分野の「近・現代史」が60.0%と高かった。逆に，公民的分野の「日本の政治制度」が30.7%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問**1**の(4)「国際空港の貨物取扱量及び乗降旅客数に関する資料の読み取り」，大問**1**の(2)「輸送に関するできごと」，大問**5**の(2)「自由民権運動」及び大問**5**の(5)「東京オリンピックが開催されたところの日本の様子」であった。逆に正答率が低かったのは，大問**6**の(1)「消費者基本法の基本理念」，大問**8**の(1)「F T A (自由貿易協定)」及び大問**7**の(2)「日本の内閣総理大臣の決まり方」であった。

無答率が高かったのは，大問**7**の(3)「地方分権」，大問**8**の(1)「F T A (自由貿易協定)」及び大問**4**の(5)「江戸時代の江戸と大坂の様子」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率	
			選択	短答	記述			
1	(1)	総合問題	関東地方の自然の特色		○	38.4	9.4	
	(2)		輸送に関するできごと		○	73.0	0.1	
	(3)		多国籍企業		○	59.3	11.0	
	(4)		国際空港の貨物取扱量及び乗降旅客数に関する資料の読み取り		○	94.1	0.3	
2	(1)	日本地理	日本の8地方区分と各区分に属する都市		○	49.2	2.4	
	(2)		①	「やませ」の名称とその影響		○	47.1	3.0
			②			○	47.2	6.6
	(3)		①	地形図の標高や方位等の読み取り		○	56.0	0.5
			②	讃岐平野でため池がつくられる理由(30字以内)		○	40.1	8.3
3	(1)	世界地理	世界の四つの大陸の位置と緯度・経度		○	32.0	0.5	
	(2)		世界の六つの州区分		○	65.2	8.1	
	(3)		世界の四つの大陸の土地の起伏		○	48.3	1.1	
	(4)		遊牧民の生活の様子とそうした生活が見られる国		○	66.4	0.2	
	(5)		年齢3階級別人口構成の割合及び産業別就業人口の割合に関する資料の読み取り		○	38.4	0.4	
4	(1)	前近代史	縄文時代の出土品		○	38.4	0.3	
	(2)		文化に関する歴史的なことから		○	39.8	0.2	
	(3)		奥州藤原氏の根拠地		○	63.5	0.1	
	(4)		東山文化期の世界のできごと		○	37.7	0.6	
	(5)		江戸時代の江戸と大阪の様子(20字以内)		○	29.3	16.4	
5	(1)	近・現代史	開国後の貿易が日本経済に与えた影響		○	65.0	0.1	
	(2)		自由民権運動		○	71.7	0.5	
	(3)		1894年から1951年までの日本のできごと		○	25.2	0.2	
	(4)		五・一五事件		○	66.9	7.4	
	(5)		東京オリンピックが開催されたころの日本の様子		○	71.0	0.3	
6	(1)	経済	消費者基本法の基本理念		○	2.5	13.6	
	(2)		寡占市場における商品の生産や価格の傾向		○	44.7	0.4	
	(3)		大型スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の年間商品販売額及び事業所数に関する資料の読み取り		○	59.9	0.4	
7	(1)	政治	日本国憲法に規定されている社会権の内容		○	48.1	0.4	
	(2)		日本の内閣総理大臣の決まり方(35字以内)		○	16.7	14.2	
	(3)		地方分権		○	27.3	20.7	
8	(1)	国際	FTA(自由貿易協定)		○	8.4	16.5	
	(2)		ASEAN, EU, 日本の貿易などに関する資料の読み取り		○	56.5	1.0	

3 数 学 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，数学の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- イ 多面的にもものを見ることや論理的に考えることの基となる，数学の理解力がみられるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力がみられるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力がみられるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,902

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1 の(1)(2)(3)(4)(5)(6)	35点	85.7	
		2 の(1)			
図 形	平 面 図 形	2 の(5), 4 の(2)	15点	3.8	28.2
		5 の(2)			
	命 題 の 証 明	4 の(1)	10点	60.7	
	三 平 方 の 定 理	3 の(3)	5点	4.1	
関 数	一 次 関 数	3 の(1)(2), 5 の(1)	20点	51.2	54.1
	関 数 $y = ax^2$	2 の(2)	5点	71.4	
資料の活用	確 率	2 の(4)	5点	44.0	41.1
	標 本 調 査	2 の(3)	5点	38.1	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は52.6点で，前年度と比べて6.1点高くなった。

領域・内容別の正答率は，数と式の「数と式の計算」が85.7%と最も高く，図形の「平面図形」が3.8%と最も低かった。

また，次の表にあるように，「数と式」の領域では，大問1の(1)「正の数・負の数(減法)」の正答率が94.7%で最も高く，大問1の(4)「一次方程式」の正答率が68.0%で最も低かった。

「図形」の領域では，大問4の(1)(b)「図形の証明(相似条件)」の正答率が92.3%で最も高く，大問5の(2)「平面図形(面積)」の正答率が0.7%で最も低かった。

「関数」の領域では，大問5の(1)(オ)(カ)「一次関数(数の規則性)」の正答率が74.9%で最も高く，大問5の(1)(キ)(ク)「一次関数(数の規則性)」の正答率が13.9%で最も低かった。

「資料の活用」の領域では，大問2の(4)「確率」の正答率が44.0%，大問2の(3)「標本調査」の正答率が38.1%であった。

無答率が高かったのは，大問5の(2)「平面図形(面積)」，大問4の(2)「平面図形(相似比の利用)」，大問3の(3)「三平方の定理の利用」及び大問4の(1)(c)「図形の証明」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率	
			選択	短答	記述			
1	(1)	正の数・負の数(減法)		○		94.7	0.0	
	(2)	正の数・負の数(四則計算:累乗を含む)		○		92.6	0.8	
	(3)	文字式の計算(分配法則)		○		88.8	1.6	
	(4)	一次方程式		○		68.0	3.5	
	(5)	平方根(根号を含む式の計算)		○		90.0	2.1	
	(6)	二次方程式(二次方程式の解の公式)		○		81.4	6.2	
2	(1)	文字を用いた式(式の値)	○			84.3	0.4	
	(2)	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○		71.4	4.5	
	(3)	標本調査		○		38.1	6.0	
	(4)	確率		○		44.0	5.4	
	(5)	平面図形(作図)			○	8.4	23.9	
3	(1)	一次関数(座標の決定)		○		70.7	9.0	
	(2)	一次関数		○		51.3	20.1	
	(3)	三平方の定理の利用		○		4.1	44.7	
4	(1)	(a)	図形の証明	○		81.7	0.6	
		(b)	図形の証明(相似条件)	○		92.3	1.0	
	(c)	6点	図形の証明(三角形の相似)				8.0	/
		3点					4.6	
		無答						
(2)	平面図形(相似比の利用)		○		2.2	45.6		
5	(1)	(ア)(イ)	一次関数(数の規則性)		○	50.2	2.7	
		(ウ)(エ)	一次関数(数の規則性)		○	46.2	9.3	
		(オ)(カ)	一次関数(数の規則性)		○	74.9	6.8	
		(キ)(ク)	一次関数(数の規則性)		○	13.9	27.6	
	(2)	平面図形(面積)		○		0.7	47.0	

4 理 科 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，第1分野，第2分野からバランスよく出題した。
- イ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- ウ 科学的な見方や考え方を身に付けているかがみられるようにした。
- エ 図や表を基に，科学的に判断する力や結果を表現する力がみられるようにした。
- オ 課題を多面的，総合的にとらえ，科学的に思考し，解決する力がみられるようにした。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,902

分 野 ・ 内 容			問 題・配 点	正答率の平均 (%)	
第1分野	物 理	熱の伝わり方	1 (1) 3点	34.9	32.3
		器具の配線と消費電力	5 10点	37.9	
		ばねにはたらく力	7 12点	26.1	
	化 学	物質の状態変化と粒子の様子	1 (2) 3点	67.4	50.7
		化学変化と電池	3 10点	46.4	
		金属の燃焼と酸との反応	6 12点	51.0	
第2分野	生 物	セキツイ動物の進化	1 (3) 3点	4.1	56.1
		裸子植物の花のつくりの観察	2 10点	65.9	
		土壌生物のはたらき	8 12点	56.9	
	地 学	銀河系内の太陽系の位置	1 (4) 3点	55.5	44.0
		気象観測	4 10点	44.7	
		地震の大きさと地震波	9 12点	40.4	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は43.9点で，前年度と比べて1.6点低くなった。

各分野の小問を集合した大問1の正答率の平均は，40.5%であった。大問1を除いた分野・内容別の正答率では，第2分野・生物の「裸子植物の花のつくりの観察」が65.9%と最も高く，第1分野・物理の「ばねにはたらく力」が26.1%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問8の(2)「上ずみ液の煮沸の理由」，大問2の(3)イ「裸子植物」及び大問2の(2)「対物レンズの倍率を高倍率にするときの操作」であった。逆に正答率が低かったのは，大問7の(4)「物体Qの質量」，大問1の(3)「セキツイ動物の進化」及び大問5の(3)「消費電力量と電気器具の使用可能時間」であった。

無答率が高かったのは，大問5の(3)「消費電力量と電気器具の使用可能時間」，大問9の(3)「走時のグラフ」及び大問7の(4)「物体Qの質量」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率	無答率		
		選択	短答	記述				
1	(1)	放射		○		34.9	8.5	
	(2)	物質の状態変化と粒子のようす	○			67.4	0.1	
	(3)	セキツイ動物の進化	○			4.1	0.1	
	(4)	銀河系内の太陽系の位置	○			55.5	0.2	
2	(1)	Xの袋		○		45.9	8.4	
		小さな粒		○		61.6	4.5	
	(2)	対物レンズの倍率を高倍率にするときの操作	○			72.5	0.1	
	(3)	ア	子房		○		66.8	3.7
イ		裸子植物		○		82.6	2.7	
3	(1)	①	銅板で起こる化学変化		○		36.6	6.1
		②	亜鉛板で起こる化学変化	○			49.2	0.2
	(2)	電流が流れる理由	○			51.0	0.8	
4	(3)	電池ができる条件			○	48.7	14.2	
	(1)	天気図記号を用いた表現			○	15.1	5.6	
	(2)	気温と湿度の読み取り		○		59.8	7.9	
	(3)	風の強い場所とその理由			○	38.7	4.3	
5	(4)	偏西風		○		65.2	3.6	
	(1)	(1)	15Aを越えずに使用できる電気器具の組み合わせ	○			68.6	0.6
		①	回路の模式図	○			57.3	1.2
			②	並列回路での発火の理由			○	13.1
(3)	消費電力量と電気器具の使用可能時間		○		12.5	31.2		
6	(1)	金属の燃焼		○		62.2	10.4	
	(2)	マグネシウムを加熱したときの化学反応式		○		42.5	13.5	
	(3)	マグネシウムの質量と化合した酸素の質量の関係			○	38.2	11.8	
	(4)	試薬と色の変化	○			60.9	0.6	
7	(1)	フックの法則		○		59.6	5.8	
	(2)	物体にはたらく力			○	18.8	10.2	
	(3)	物体が台を押す力		○		23.0	8.6	
	(4)	物体Qの質量		○		2.9	21.9	
8	(1)	トビムシ	○			52.1	0.9	
	(2)	上ずみ液の煮沸の理由	○			82.9	0.9	
	(3)	実験結果とデンプンの分解	○			62.9	1.4	
	(4)	実験の条件の決め方			○	29.7	12.5	
9	(1)	マグニチュードと地震のエネルギー	○			43.7	2.6	
	(2)	震度の階級数		○		62.8	2.4	
	(3)	走時のグラフ			○	39.9	29.2	
	(4)	緊急地震速報の到達と主要動の到達		○		15.1	20.9	

5 英 語 (前 期)

(1) 出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的、基本的な知識や技能を、全領域にわたり身に付けているかがみられるようにした。

イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などがみられるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力がみられるようにした。

ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力がみられるようにした。

エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力がみられるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,902

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率の平均 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (対話を聞いて答える)	1 6点	64.0	63.8
	リスニングテスト (絵を見て答える)	2 6点	59.3	
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 9点	66.7	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 20点	55.4	53.1
	長い文章の読解	8 12点	38.2	
	対話文の流れの理解	9 12点	64.5	
書くこと (話すこと)	単語のつづり	4 12点	40.6	43.4
	文法及び文構造	5 15点	51.8	
	英語による自己表現 (絵を見て状況を把握する)	6 8点	12.2	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は54.2点で、前年度と比べて3.6点高くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(対話やまとまりのある文章を聞いて答える)」が66.7%と最も高く、書くこと(話すこと)の「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」が12.2%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問7の(1)④「文脈に合わせて英語を選ぶ」、大問3のNo.1「文章を聞いて英語を選ぶ」及び大問7の(2)②「内容と合う日本語を選ぶ」であった。逆に正答率が低かったのは、大問4の(3)「support のつづり」、大問6「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」及び大問8の(2)「英語の質問に英語で答える」であった。

無答率が高かったのは、大問4の(3)「support のつづり」、大問8の(2)「英語の質問に英語で答える」及び大問4の(2)「repeat のつづり」であった。

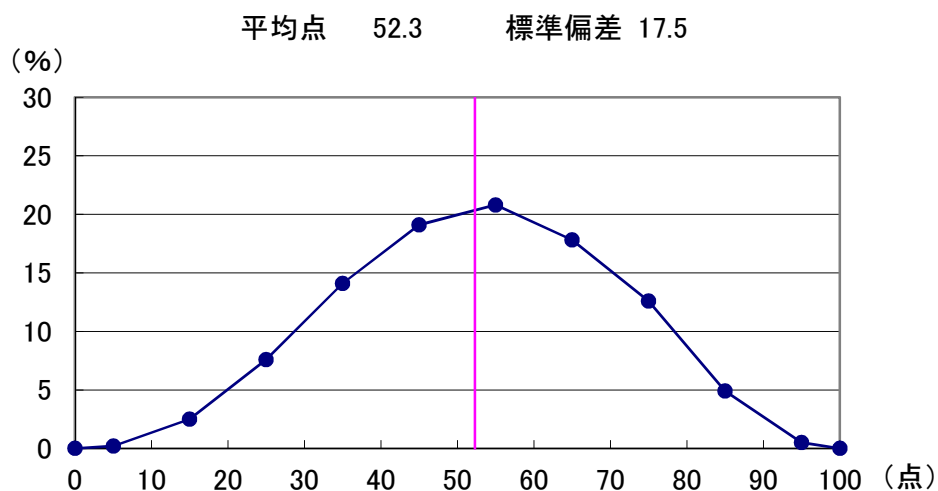
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率		
			選択	短答	記述				
1	No.1	リスニング	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ		○		80.4	0.1	
	No.2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ		○		47.6	0.0	
2	No.1	リスニング	文章を聞いて絵を選ぶ		○		80.1	0.0	
	No.2		文章を聞いて絵を選ぶ		○		38.5	0.0	
3	No.1	リスニング	文章を聞いて英語を選ぶ		○		90.1	0	
	No.2		対話を聞いて英語を選ぶ		○		52.3	0.1	
	No.3		対話を聞いて英語を選ぶ		○		57.7	0.1	
4	(1)	単語つづり	uncle のつづり			○	77.8	8.8	
	(2)		repeat のつづり			○	37.9	25.8	
	(3)		support のつづり			○	7.5	42.2	
	(4)		thousand のつづり			○	39.3	18.6	
5	(1)	文法・文構造	名詞 city を複数形 cities にする			○	66.0	3.8	
	(2)		他動詞 teach を過去形 taught にする			○	43.6	3.1	
	(3)		語順整序 (I don't know what to do first.)		○		80.4	0.2	
	(4)		語順整序 (Are you sure this is the book you left on the train?)		○		33.8	1.4	
	(5)		語順整序 (It is famous for selling bikes made in France.)		○		35.3	0.4	
6	8点	自己表現	(解答例)				12.2		
	5～7点		Wow! Why are you carrying so many boxes, Dad?			○	30.9		
	1～4点		OK, just a minute. I'll stop washing Rocky and help you.				28.2		
	無答							11.5	
7	(1)	短文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○		92.8	0.0	
			文脈に合わせて英語を選ぶ		○		70.4	0.2	
	(2)		5点					21.0	
			3～4点	英語の質問に英語で答える			○	28.7	
			1～2点					11.7	
			無答						13.0
	(3)		内容と合う日本語を選ぶ		○		84.0	0.1	
(3)	①	内容と合うよう英語を補充する			○	20.3	7.6		
	②	内容と合う英語を選ぶ		○		43.9	0.9		
8	(1)	長文読解	内容と合うよう英語を補充する			○	21.2	23.9	
	(2)		3点					15.6	
			1～2点	英語の質問に英語で答える			○	21.9	
			無答						36.0
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		60.3	0.9	
(4)	内容と合う英語を選ぶ		○		55.6	1.7			
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○		78.3	0.2	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		58.0	0.4	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		59.8	0.7	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		61.8	0.9	

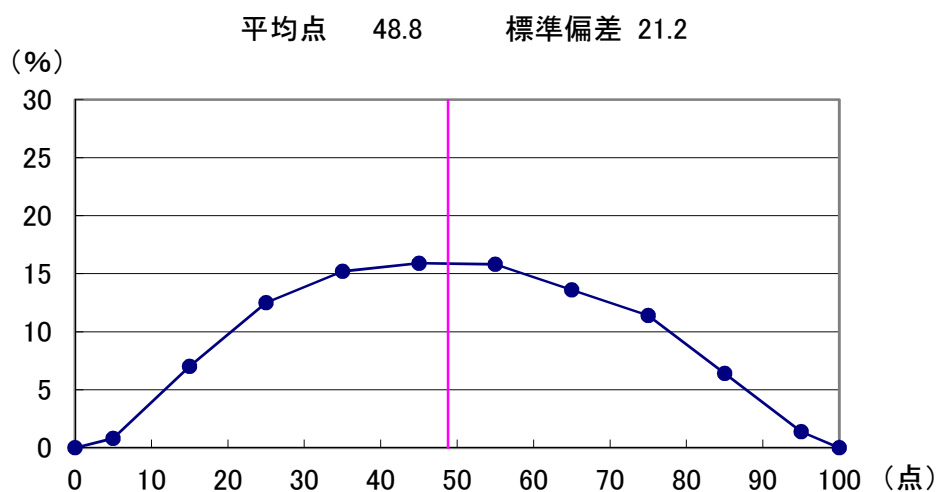
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

Ⅲ 【前期選抜】受検者の得点分布

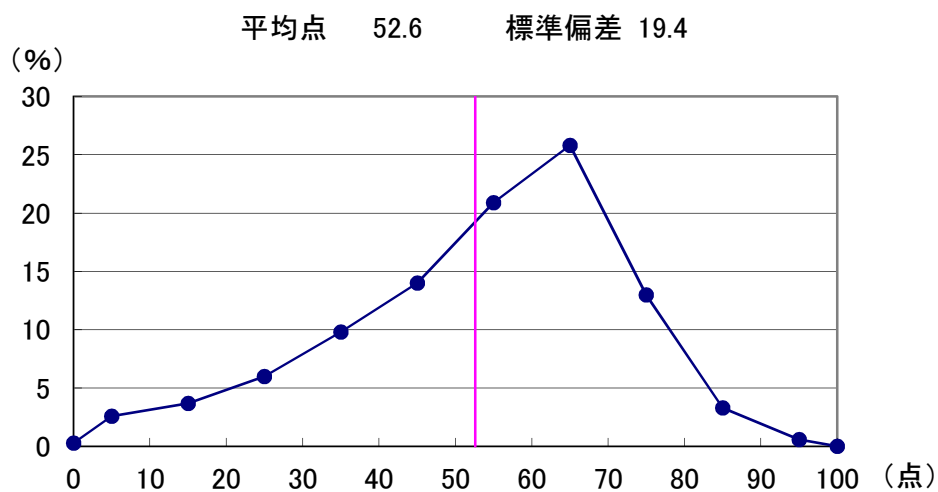
1 国語



2 社会

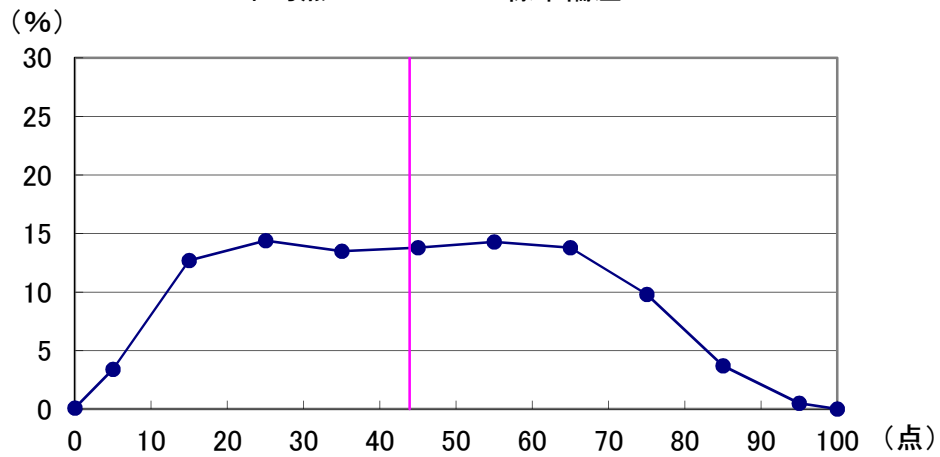


3 数学



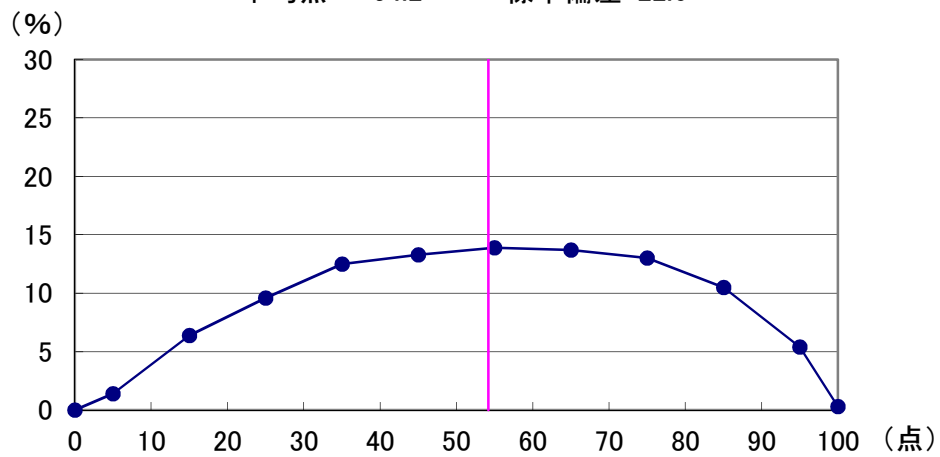
4 理科

平均点 43.9 標準偏差 21.8



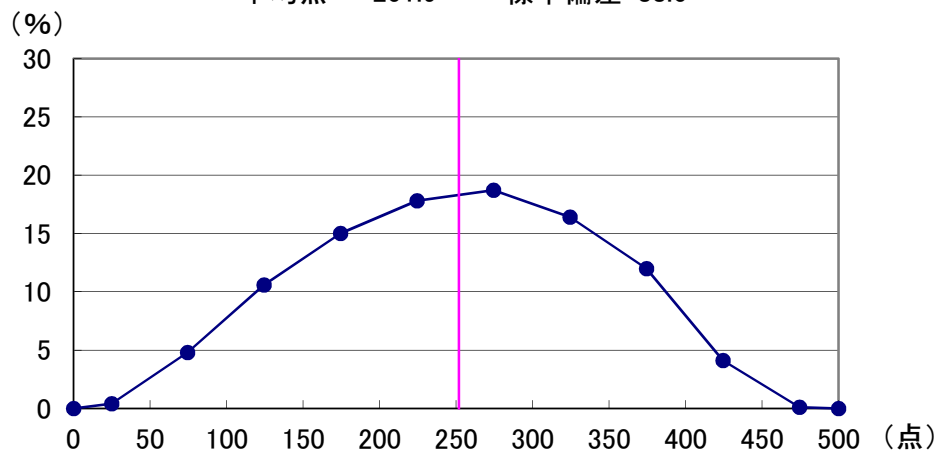
5 英語

平均点 54.2 標準偏差 22.6



6 5教科得点合計

平均点 251.9 標準偏差 88.5



IV 【後期選抜】教科別の結果

1 国 語（後 期）

（1）出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき，3領域（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」）の基礎的・基本的な力がみられるようにした。

イ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力がみられるようにした。

ウ 様々な文章について，内容を的確に理解し，書き手の伝えたいことなどを考察する力がみられるようにした。

エ 与えられた材料について，自分の言葉で考えを適切にまとめたり，相手に的確に伝えたりする力がみられるようにした。

（2）正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,767

領 域（事 項）・ 内 容		問 題・配 点		正答率の平均（％）
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一	10点	55.0
書 く こ と	作文	七	10点	9.1
読 む こ と	説明的な文章	四 (2)～(5)	20点	60.7
	文学的な文章	五 (1)～(4) (5)②, (6)	23点	54.2
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	六	13点	55.9
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四 (1) 五 (5)①	6点	60.6
	漢字に関する 事項	読み 書き	二 三	8点 10点

（3）結 果 の 説 明

全体の平均点は57.6点で，前年度と比べて5.0点高くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が81.0%と最も高く，次いで「漢字に関する事項（書き）」が65.7%，読むことの「説明的な文章」が60.7%であった。逆に，書くことの「作文」が9.1%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問二「漢字（読み）」の(1)「潤（い）」，大問六の(1)「歴史的仮名遣い」及び大問二「漢字（読み）」の(3)「脳裏」であった。逆に正答率が低かったのは，大問七の「作者の言葉についての一段落構成の作文」，大問四の(5)「文章全体の内容の理解と表現」及び大問五の(5)②「登場人物相互の心情の理解と表現」であった。

無答率が高かったのは，大問五の(5)②「登場人物相互の心情の理解と表現」，大問六の(4)「登場人物の心情の理解と表現」及び大問四の(5)「文章全体の内容の理解と表現」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容			問題形式			正答率	無答率	
				選択	短答	記述			
一	(1)	放送による聞き取り 「ボランティアを通じて考えたこと」(スピーチ)	スピーチの内容の理解		○		69.0	1.0	
	(2)		表現の工夫の評価	○			49.4	0	
	(3)		スピーチの内容の理解と表現	○			46.6	0.1	
二	(1)	漢字 (読み)	潤[うるお](い)		○		93.8	1.2	
	(2)		射[い](ている)		○		72.1	1.3	
	(3)		脳裏[のうり]		○		85.6	1.3	
	(4)		鍛錬[たんれん]		○		72.6	2.7	
三	(1)	漢字 (書き)	操(る)		○		73.1	11.2	
	(2)		秘(める)		○		82.0	10.0	
	(3)		逆境		○		61.2	15.4	
	(4)		展望		○		45.2	14.6	
	(5)		日進月歩		○		67.2	14.8	
四	(1)	説明的文章 『15歳の寺子屋 ゴリラは語る』	助動詞「られる」の意味	○			69.9	0.1	
	(2)		文章の展開の理解	○			72.8	0.2	
	(3)		①	文章の展開の理解		○		76.5	6.0
			②	文章の内容の理解		○		70.7	11.6
	(4)		文章の内容の理解	○			73.2	0.2	
	(5)		6点	文章全体の内容の理解と表現 (40字以上50字以内)			○	10.4	
1～5点					○	26.0			
無答							21.6		
五	(1)	文学的文章 『さらば、おやじどの』	文章の展開の理解	○			50.6	0.2	
	(2)		登場人物の心情の理解	○			72.2	0.3	
	(3)		①	登場人物の心情の理解と表現 (5字以上10字以内)			○	45.8	
			1～2点				○	12.6	
			無答						8.8
	(3)		②	登場人物の心情の理解と表現 (漢字2字)		○		46.0	
			3点				○	3.1	
			1～2点						18.3
	(4)		情景と登場人物の心情の関係の理解	○			72.6	0.9	
	(5)		①	表現の特徴と効果の理解	○			51.2	2.7
②		登場人物相互の心情の理解と表現 (10字以上15字以内)			○	23.4			
		4点				○	16.4		
		1～3点						31.5	
(6)	登場人物の心情の理解	○			69.0	3.3			
六	(1)	古典 『日本永代蔵』	歴史的仮名遣い		○		88.4	3.3	
	(2)		文章の展開の理解(主語)		○		38.0	6.2	
	(3)		文章の内容の理解	○			72.8	2.5	
	(4)		4点	登場人物の心情の理解と表現 (15字以上25字以内)			○	24.3	
1～3点					○	15.8			
七	10点	条件作文 「生きる喜びとは 主役を演じることを 意味しはしない。」	作者の言葉についての一段落構成の作文 (140字以内)			○	9.1		
	6～9点		・前半部分は作者が伝えようとしていること			○	21.6		
	1～5点		・後半部分は前半部分の説明に対する自分の 考えと自分の体験			○	21.2		
	無答							8.7	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し，学習の成果が総合的にみられるようにした。
- イ 基礎的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにするとともに，現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度がみられるようにした。
- ウ 統計や地形図，写真などの諸資料を活用して，社会的事象を判断・分析する力，そしてそれを表現する力がみられるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力がみられるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,767

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)	
総 合	総 合 問 題	1 11点	76.6	
地 理 的 分 野	日 本 地 理	2 15点	58.3	60.2
	世 界 地 理	3 15点	62.2	
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	4 16点	48.6	54.5
	近 ・ 現 代 史	5 19点	59.4	
公 民 的 分 野	国民生活と経済・社会	6 12点	55.2	48.5
	日本の政治制度	7 12点	41.8	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は60.0点で，前年度と比べ3.5点高くなった。

分野・内容別の正答率は，総合問題が76.6%と最も高く，次いで地理的分野の「世界地理」が，62.2%と高かった。逆に，公民的分野の「日本の政治制度」が41.8%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問**2**の(2)「リアス海岸」，大問**3**の(1)「地球上の2つの地点の地図上でのあらし方」及び大問**1**の(2)「三大都市圏」であった。逆に正答率が低かったのは，大問**5**の(5)「冷たい戦争に関することがら」，大問**4**の(4)「田沼意次の財政再建策」及び大問**7**の(1)「国民主権の意味」であった。

無答率が高かったのは，大問**4**の(4)「田沼意次の財政再建策」，大問**5**の(1)X「徴兵令」及び大問**7**の(3)「公共の福祉」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率		
			選択	短答	記述				
1	(1)	総合問題	うちわの産地に関する資料の読み取り		○		70.6	0.3	
	(2)		三大都市圏		○		80.6	0	
	(3)		千葉県ゆかりの人物に関することがら		○		78.6	0.1	
2	(1)	日本地理	県庁所在地と緯度		○		46.7	0.5	
	(2)		リアス海岸			○	90.3	4.0	
	(3)		①	田, 畑, 樹園地及び牧草地の割合, 林野率より県を特定		○		41.7	0.6
			②			○		41.2	0.7
			③			○		64.8	0.7
			④			○		60.4	0.6
(4)	地形図の距離や標高等の読み取り		○		62.8	0.2			
3	(1)	世界地理	地球上の2つの地点の地図上でのあらし方		○		82.2	0.3	
	(2)		A	平均気温及び平均降水量より都市を特定		○		48.2	0.3
			B			○		58.8	0.3
			C			○		59.2	0.3
			D			○		54.2	0.3
	(3)		アルプス・ヒマラヤ造山帯			○	65.7	7.1	
(4)	アフリカの気候, 農業及び貿易に関する資料の読み取り		○		67.1	0.6			
4	(1)	前近代史	墾田永年私財法の影響		○		76.9	0.3	
	(2)		I	守護・地頭の設置の経緯			○	32.1	13.5
			II				○	63.1	9.2
	(3)		下剋上, できごとの並べ替えと下剋上の時期		○		54.8	0.5	
(4)	田沼意次の財政再建策(25字以内)				○	16.2	28.4		
5	(1)	近代史	廃藩置県			○	74.6	12.8	
			徴兵令			○	54.0	15.6	
	(2)		日清戦争後のできごと		○		76.7	0.1	
	(3)		日独伊三国同盟		○		67.8	0.1	
	(4)		ポツダム宣言		○		69.7	0.2	
(5)	冷たい戦争に関することがら		○		13.5	0.3			
6	(1)	経済	株主総会			○	69.4	7.6	
	(2)		為替相場の推移による貿易への影響		○		32.5	0.5	
	(3)		企業におけるIT(情報技術)の活用に関する資料の読み取り		○		63.7	0.6	
7	(1)	政治	国民主権の意味(30字以内)				○	31.1	14.0
	(2)		I:小選挙区制, II:一票の価値の格差が最も少なくなる衆議院議員選挙の小選挙区制の区割りの仕方		○		46.3	1.5	
	(3)		公共の福祉			○	47.9	15.6	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，数学の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- イ 多面的にもものを見ることや論理的に考えることの基となる，数学の理解力がみられるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力がみられるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力がみられるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,767

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1 の(1)(2)(3)(4)(5)(6)	50点	66.1	
		2 の(1)(2)			
		5 の(2)(エ)(3)			
図 形	平 面 図 形	2 の(5), 4 の(2)	18点	42.9	48.2
	空 間 図 形	5 の(1)(2)(ア)(イ)(ウ)	6点	30.8	
	命 題 の 証 明	2 の(3)	10点	62.8	
関 数	関 数 $y = ax^2$	3 の(1)(2)	10点	41.1	
資料の活用	確 率	2 の(4)	6点	41.9	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は52.8点で，前年度と比べて2.6点低くなった。

領域・内容別の正答率は，数と式の「数と式の計算」が66.1%と最も高く，図形の「空間図形」が30.8%と最も低かった。

また，次の表にあるように，「数と式」の領域では，大問1の(1)「正の数・負の数(加法)」の正答率が98.5%で最も高く，大問5の(3)「一次方程式」の正答率が5.8%で最も低かった。

「図形」の領域では，大問4の(1)(a)「図形の証明」の正答率が93.8%で最も高く，大問4の(2)「平面図形(相似比の利用)」の正答率が5.1%で最も低かった。

「関数」の領域では，大問3の(1)「関数 $y = ax^2$ (関数の決定)」の正答率が72.7%で，大問3の(2)「関数 $y = ax^2$ (面積比)」の正答率が9.4%であった。

「資料の活用」の領域では，大問2の(4)「確率」の正答率が41.9%であった。

無答率が高かったのは，大問4の(1)(c)「図形の証明(三角形の相似)」，大問4の(2)「平面図形(相似比の利用)」，大問5の(2)(エ)「文字式の利用」及び(3)「一次方程式」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率	
			選 択	短 答	記 述			
1	(1)	正の数・負の数(加法)		○		98.5	0	
	(2)	正の数・負の数(四則計算:累乗を含む)		○		94.7	0.3	
	(3)	文字式の計算(分配法則)		○		90.5	1.2	
	(4)	平方根(根号を含む式の計算)		○		86.6	1.1	
	(5)	文字式の計算(式の値)		○		79.7	1.7	
	(6)	因数分解		○		88.6	2.8	
2	(1)	正の数・負の数(絶対値)	○			38.9	0.5	
	(2)	一次方程式		○		58.2	3.5	
	(3)	空間図形(立体の体積)		○		30.8	31.3	
	(4)	確率		○		41.9	11.0	
	(5)	平面図形(作図)			○	32.3	21.3	
3	(1)	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○		72.7	6.2	
	(2)	関数 $y = ax^2$ (面積比)		○		9.4	29.3	
4	(1)	(a)	図形の証明	○		93.8	0.8	
		(b)	図形の証明	○		87.7	0.9	
	(c)	6点	図形の証明(三角形の相似)			○	7.0	/
		3点				○	3.1	
		無答						
(2)	平面図形(相似比の利用)		○		5.1	47.6		
5	(1)	平面図形(面積)		○		60.2	7.9	
	(2)	(ア)	平面図形(面積)		○		65.7	6.6
		(イ)(ウ)	平面図形(面積)		○		51.4	10.8
		(エ)	文字式の利用		○		19.8	37.7
(3)	一次方程式		○		5.8	36.0		

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，第1分野，第2分野からバランスよく出題した。
- イ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- ウ 科学的な見方や考え方を身に付けているかがみられるようにした。
- エ 図や表を基に，科学的に判断する力や結果を表現する力がみられるようにした。
- オ 課題を多面的，総合的にとらえ，科学的に思考し，解決する力がみられるようにした。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=1,767

分 野 ・ 内 容			問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)	
第 1 分 野	物 理	音の性質	3 1 2点	64.8	56.4
		滑車・斜面と仕事	8 1 3点	48.1	
	化 学	海水中の塩化ナトリウム	1 1 2点	55.9	58.2
		炭酸水素ナトリウムの熱分解	7 1 3点	60.4	
第 2 分 野	生 物	刺激に対する反応	4 1 2点	46.6	48.5
		花粉と発芽	6 1 3点	50.4	
	地 学	火山と火山灰	2 1 2点	61.2	63.7
		地球の自転・公転と星座	5 1 3点	65.7	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は54.8点で，前年度と比べて1.6点低くなった。

分野・内容別の正答率は，第2分野・地学の「地球の自転・公転と星座」が65.7%と最も高く，第2分野・生物の「刺激に対する反応」が46.6%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問3の(3)①「ヘルツ」，大問5の(2)b「星座の1時間分の移動」及び大問1の(1)符号「ろ過のしくみ」であった。逆に正答率が低かったのは，大問8の(3)「手がばねばかりを引く力」，大問4の(2)「刺激や命令などの伝わり方」及び大問1の(3)「飽和水溶液と溶解度の関係」であった。

無答率が高かったのは，大問8の(3)「手がばねばかりを引く力」，大問1の(2)「海水の質量パーセント濃度」及び大問6の(1)「花粉管の伸び方」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率	
			選択	短答	記述			
1	(1)	操作	ろ過		○		80.0	6.6
		符号	ろ過のしくみ	○			83.6	0.3
	(2)		海水の質量パーセント濃度		○		31.9	10.2
	(3)		飽和水溶液と溶解度の関係	○			28.1	0.8
2	(1)		火山灰観察の操作	○			69.4	0.1
	(2)	①	火山灰中の鉱物構成	○			75.3	0.1
		②	火山の形と噴火のようす	○			60.1	0.3
(3)		層序の読み取り	○			39.8	0.3	
3	(1)		音の伝わり方	○			54.5	0.2
	(2)		波形と音の大きさ・高さ	○			77.9	0.3
	(3)	①	ヘルツ		○		90.3	3.5
		②	モノコードを調整するための操作	○			36.4	0.6
4	(1)	部分	ヒトの目の感覚細胞の位置	○			63.0	1.0
		名称	網膜		○		51.0	7.4
	(2)		刺激や命令などの伝わり方	○			22.2	0.2
	(3)		反射の説明			○	50.0	5.7
5	(1)		南北の空での季節による星座の見え方	○			63.3	0.2
	(2)	a	地球の1か月分の公転		○		79.9	2.3
		b	星座の1時間分の移動		○		86.6	1.5
		c	年周運動と日周運動の比較		○		67.6	3.1
(3)		異なる日付と時刻に見える星座のようす	○			31.3	1.0	
6	(1)		花粉管の伸び方			○	36.9	9.2
	(2)	名称	精細胞		○		70.3	8.2
		染色体の数	精細胞中の染色体数			○		38.3
(3)		種子の形成	○			56.0	0.5	
7	(1)		塩化コバルト紙の色の变化	○			58.8	0.5
	(2)	①	フェノールフタレイン液の色の变化	○			52.4	0.7
		②	炭酸水素ナトリウムの熱分解		○		52.2	8.1
	(3)		炭酸水素ナトリウムの効果	○			78.3	6.4
8	(1)	a	仕事の原理	○			79.4	1.1
		b	台車にした仕事の量		○		71.0	3.9
	(2)		重力の斜面方向の分力			○	32.4	6.2
	(3)		手がばねばかりを引く力		○		9.4	10.3

5 英 語 (後 期)

(1) 出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的、基本的な知識や技能を、全領域にわたり身に付けているかがみられるようにした。

イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などがみられるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力がみられるようにした。

ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力がみられるようにした。

エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力がみられるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,767

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率 の 平 均 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (絵を見て答える, 対話やまとまりのある 文章を聞いて答える)	1 20点	78.6	
	短い文章の読解	4 16点	48.9	48.2
読むこと (話すこと)	長い文章の読解	5 20点	41.7	
	対話文の流れの理解	6 16点	55.6	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	2 20点	45.2	39.4
	英語による自己表現	3 8点	10.4	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は、55.5点で、前年度と比べて5.2点高くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと（話すこと）の「リスニングテスト（絵を見て答える、対話やまとまりのある文章を聞いて答える）」が78.6%と最も高く、書くこと（話すこと）の「英語による自己表現」が10.4%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問1のNo.1「文章を聞いて絵を選ぶ」、No.2「対話を聞いて絵を選ぶ」、No.4「英文を聞いて英語を選ぶ」、No.5「対話を聞いて英語を選ぶ」及び大問5の(1)「文脈に合わせて英語を選ぶ」であった。逆に正答率が低かったのは、大問5の(3)「英語の質問に英語で答える」、大問3「英語による自己表現」及び大問4の(2)①「英語の質問に英語で答える」であった。

無答率が高かったのは、大問5の(3)「英語の質問に英語で答える」、大問5の(2)①「内容と合うよう英語を補充する」及び大問4の(2)①「英語の質問に英語で答える」であった。

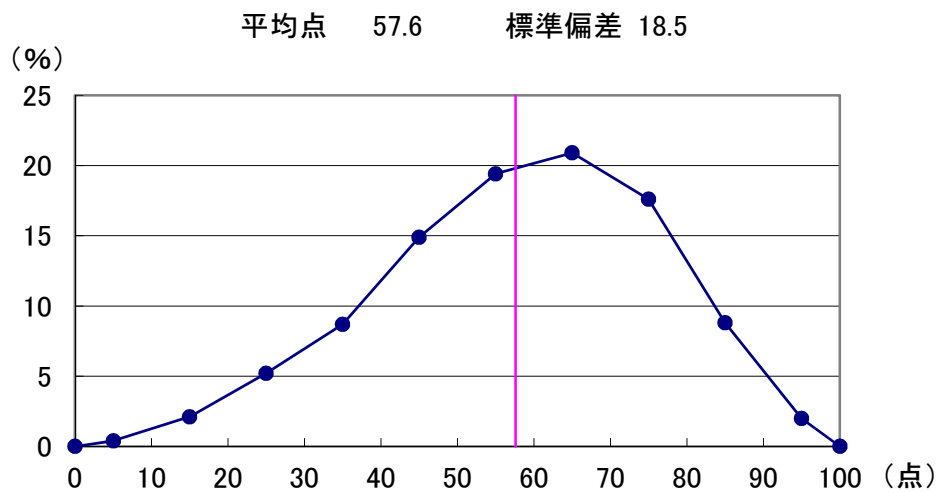
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率	無答率		
			選択	短答	記述				
1	No.1	リスニング	文章を聞いて絵を選ぶ		○		93.6	0	
	No.2		対話を聞いて絵を選ぶ		○		87.2	0	
	No.3		対話を聞いて英語を選ぶ		○		63.9	0	
	No.4		英文を聞いて英語を選ぶ		○		77.4	0	
	No.5		対話を聞いて英語を選ぶ		○		71.1	0	
2	(1)	文法・文構造	他動詞 sell を過去形 sold にする			○	58.3	3.2	
	(2)		形容詞 funny を最上級 funniest にする			○	35.3	5.8	
	(3)		語順整序 (Who is the woman talking to your mother?)		○		44.1	0.1	
	(4)		語順整序 (There are some differences between my chair and yours.)		○		55.7	0.3	
	(5)		語順整序 (I wonder how many pieces of wood are used to make this box.)		○		32.5	0.5	
3	8点	自己表現	(解答例)				10.4		
	5～7点		Ⓐ (I think so, too.)			○	31.1		
	1～4点		Ⓑ (Newspapers are just like textbooks. We learn many things about the world by reading them.)				29.5		
	無答							11.6	
4	(1)	短文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○		49.0	0.1	
			文脈に合わせて英語を選ぶ		○		57.0	0.2	
	(2)		①	英語の質問に英語で答える				23.4	
				4点			16.3		
				3点			25.0		
				1～2点				14.2	
	②	内容と合う英語を選ぶ		○		66.1	0.5		
5	(1)	長文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○		68.4	0.6	
	(2)		①	内容と合うよう英語を補充する			○	37.4	15.2
			②	内容と合う英語を選ぶ		○		55.2	1.2
			③	内容と合う英語を選ぶ		○		42.8	1.5
	(3)			英語の質問に英語で答える				4.9	
				4点			7.4		
				3点			22.6		
				1～2点				26.6	
	無答								
6	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○		55.4	0.8	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		63.1	0.9	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		62.7	1.3	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		41.1	1.8	

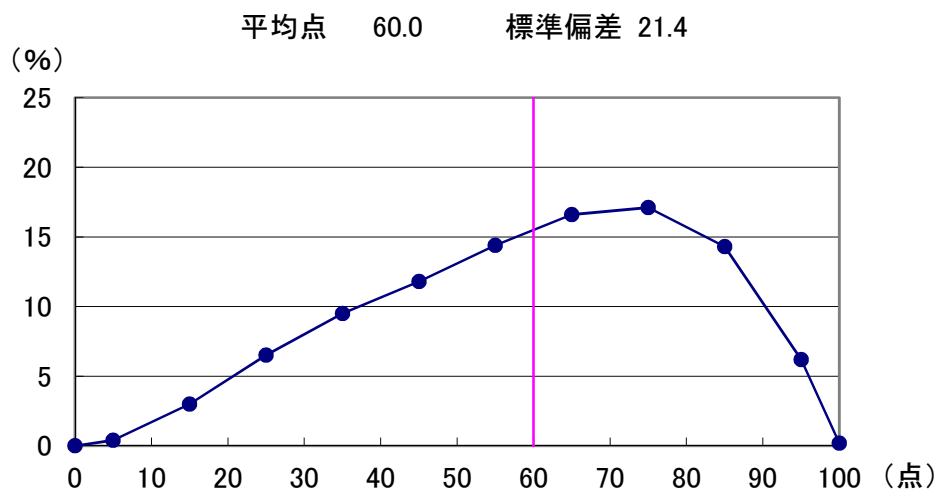
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

V 【後期選抜】受検者の得点分布

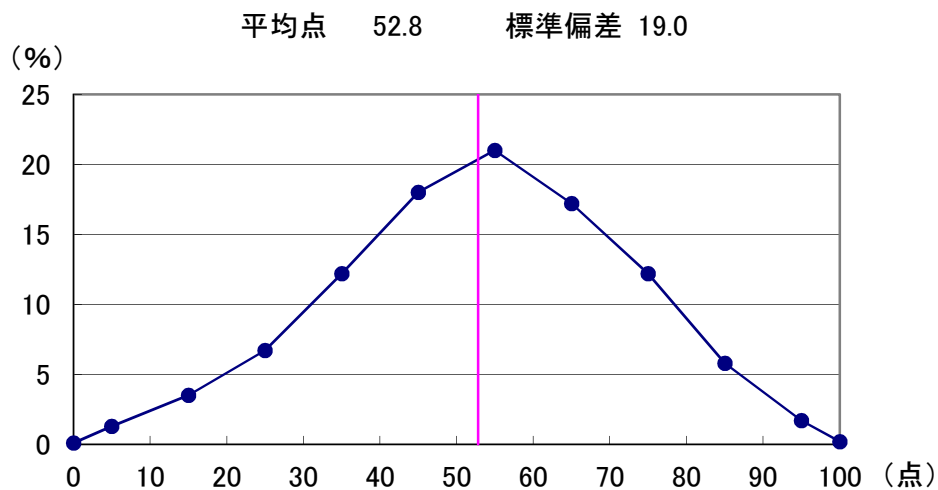
1 国語



2 社会

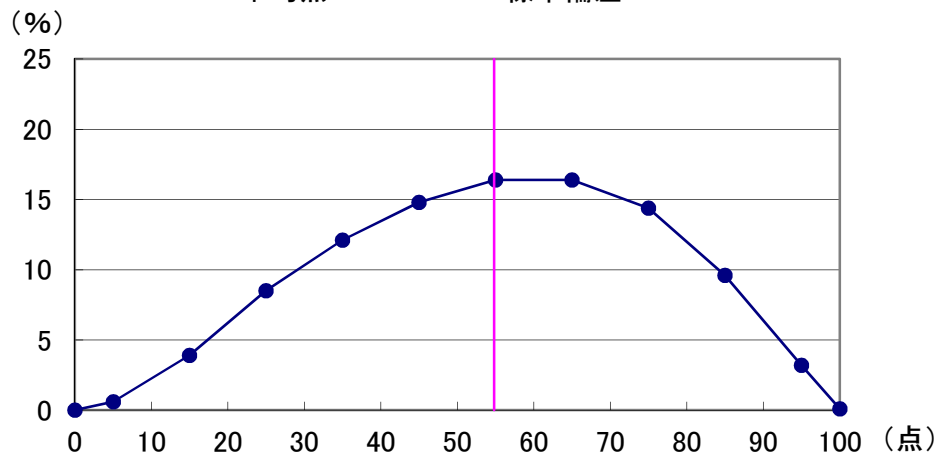


3 数学



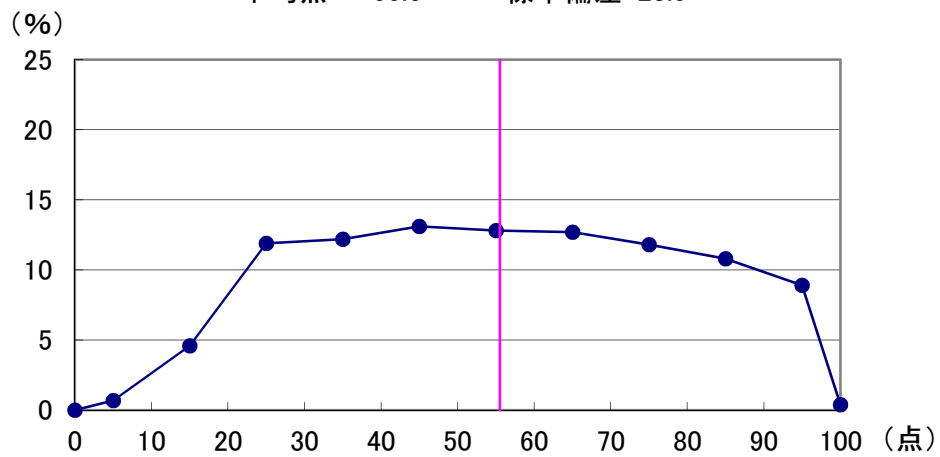
4 理科

平均点 54.8 標準偏差 20.9



5 英語

平均点 55.5 標準偏差 23.9



6 5教科得点合計

平均点 280.7 標準偏差 91.1

